

## アイヌの人たちの歴史・文化

## 言葉

アイヌ語は、かつては北海道、樺太南部、千島列島などで話されていました。言語学上、記録に残されている諸方言は、大きく北海道、樺太、千島に三分され、北海道方言については、さらに北部(宗谷)・東部(釧路、北見、十勝、日高東部)・中部(石狩、天塩)・南部(日高西部、胆振)・南西部(後志)の五つに区分されています。

### 身近なアイヌ語

北海道のほとんどの地名が、アイヌ語に由来しています。アイヌ語の地名は、北海道をはじめ、東はカムチャッカ半島の先端部、千島列島、サハリン(樺太)の西海岸と東海岸の南部、サハリンに対岸する沿岸の一部、それに本州の東北地方に分布し、生活に不可欠な動植物、信仰の対象、交通の要所、地形の表現、方位、形態の大小などの単語が組み合って成立しています。特に、川を示す言葉のペツ(別)やナイ(内)がついた地名が多く、川はアイヌの人たちの生活のよりどころであり交通路でもあったことが、川の名がついた地名の多さからも理解できます。地名を聞くことでその場所の様子や、かつての環境を想像できることが多く、私たちが身近に接することができるアイヌ文化の一つでもあります。このほか、よく使われるアイヌ語として「魚」のシシャモ、「動物」のラッコ、トナカイなどがあります。

### アイヌ語の過去・現在

北海道への入植者が急増する明治の中期までは、アイヌの人たちなら誰でもアイヌ語を話すことができました。

しかし、明治30年以降、政府が同化政策を強化したことにより、学校では、アイヌの子どもたちに日本語のみによる教育が行われ、一般社会においても、日本語の習得が就労条件になるなど、必然的にアイヌ語を話す人が激減しました。アイヌ語を母語として習得する環境は、第二次世界大戦前にはほぼなくなりました。

現在では、主要な第二外国語を学ぶより厳しい学習環境と言えます。話し手はすべて日本語とのバイリンガルですが、近年、アイヌ語を取りまく環境が改善されつつあり、各地でアイヌ語を継承・復興させるための事業が行われています。1970年代になると、ウタリ協会が中心となりアイヌ語教室(現在全道14校)が開かれて、1994年には、アイヌ語教室共通テキストとして『アコロ イタク』が刊行されました。アイヌ文化振興法制定後、アイヌ語の弁論大会、アイヌ語ラジオ講座が放送されるなど、様々な活動が行われてきています。



<平成19年度アイヌ語  
ラジオ講座テキスト(vol.1~4)>

### 口承文芸

アイヌの人たちは、物語や伝説、体験談や人生の教訓などのすべてを口承によって語り継いできました。物語については、一般的に大きく3つに区分され、地方により、それぞれ異なる呼び方があります。

**英雄叙事詩**(少年・少女が主人公の英雄物語) ~ 「ユーカラ/サコロベ/ハウキ」

**神謡**(神様が主人公の物語) ~ 「カムイユカラ/オイナ」

**散文説話**(昔の出来事や昔の人が体験した話) ~ 「ウエペケレ/トウイタク」

- 【出典】 『アイヌの人たちとともに』 その歴史と文化 (財)アイヌ文化振興・研究推進機構  
『ボン カンピソシ』アイヌ文化紹介1・はなす 北海道立アイヌ民族文化研究センター編  
『世界百科事典 アイヌ』 中川裕 児島恭子 平凡社  
『アイヌ古式舞踊とは -』(社)北海道ウタリ協会・北海道アイヌ古式舞踊連合保存会  
『日本民族大辞典(上)』 林英男編 吉川弘文館発行

### アイヌ語辞典の紹介

~ アイヌ語辞典を紹介します。 ~

- 萱野 茂 「萱野 茂のアイヌ語辞典」+増補版 二所収 1996、2002 三省堂  
知里真志保 「知里真志保著作集」四所収 1974 平凡社  
田村すず子 「アイヌ語沙流方言辞典」1996 草風館  
中川 裕 「アイヌ語千歳方言辞典」1995 草風館  
服部四郎 「アイヌ語方言辞典」1964 岩波書店  
ジョン・パチラー 「アイヌ・英・和辞典」1938 岩波書店

日高教育局では、毎年、初任者研修「地域研修」において、アイヌの人たちの歴史・文化等に関する講座を設けています。

ねらい

施設見学や実習活動を通して、アイヌの人々の生活や文化を理解するとともに、日高管内の歴史や文化についての知見を得る。

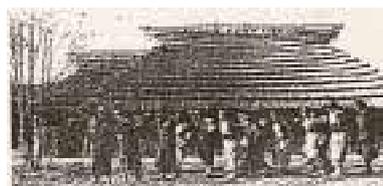
講師

平取町立二風谷アイヌ文化博物館学芸員・沙流川歴史館学芸員

主な活動内容と資料

講義「アイヌ民族の歴史と文化」

博物館学芸員を講師に、アイヌ民族の歴史と文化の概要について、展示資料と映像資料を活用しながら、講義をしていただきます。



民族舞踊の様子

見学・説明1「アイヌ民族の伝統文化」

博物館学芸員を講師に、アイヌの人たちの伝統的な生活文化について、実際の生活用具や様々な儀式を紹介してもらいながら、説明していただきます。



【ノイモシ】  
よもぎで作った守護神

見学・説明2「沙流川流域の遺跡群」

歴史館学芸員を講師に、北海道の歴史におけるアイヌ民族の位置付けについて、沙流川周辺での人々の暮らしや営みを中心にしながら、説明していただきます。

実習活動「ムックリの製作」

アイヌ民族の方を講師に、アイヌの人たちの代表的な楽器である「ムックリ」の製作と演奏の指導をいただくとともに、アイヌ文様や古式舞踊についても説明していただきます。



【サラニ】  
しなの木の皮で編んだ  
背負い袋

参加者の感想

- ・環境・自然との共生というアイヌの人々の生き方を環境教育だけでなく、家族の在り方や人間としての生き方として伝え、教育活動に生かしていきたいと感じました。
- ・北海道の歴史、アイヌの人たちの歴史や文化について、わかっていなかったことがありました。子どもたちにも歴史や文化を正確に伝えていかなければならないと感じました。

## アイヌの人たちの歴史・文化等に関する指導の実践例の紹介

### ～北海道公立学校教育課程研究実践成果報告集から～

平取町立二風谷小学校（平成15年度北海道公立学校教育課程研究実践成果報告集概要掲載）

< 研究主題 > 地域に根ざし、生き生きと活動する子どもの育成

～ 地域を知り、地域に学ぶ活動を通して～

< 研究の概要 >

アイヌ文化を継承している地域のよさに気付かせるために、総合的な学習の時間において、アイヌ文化や地域の自然について地域の人々から体験をとおして学ぶという「ハララキ活動」を展開しており、児童は、地域についての関心を高め、豊かな自然やアイヌ文化についての理解を深めた。

「ハララキ」とは、アイヌ語で「鶴の舞」という意味です。